

はじめに

2026 年 1 月に入会した石島です。よろしくお願いいたします。

高校生の頃にいわゆるオーディオ・ブームが到来。その後、この趣味とは付かず離れず適度に付き合ってきました。「出来るだけ安上がりに音楽を楽しむ」という基本姿勢は当時も今も変わりません。

思えば、90 年代に真空管が底値だった頃、老後の暇つぶしに……と安い真空管をずいぶん買い込んだものの、最近のトランス類の異常な高騰、高耐圧ケミコンの入手難、自らの製作意欲の低下や老眼など、当時は考えもしなかったことに直面してかなり意気消沈しています。安いからと買い込んだのは大失敗、ただただ断捨離ネタを増やしたただけでした。

以下、書き散らかしましたが、何か皆様のお役に立てるようなことがあれば幸いです。

モノラル再生の背景

自分に少し変わったところがあるとすれば、スピーカー 1 台でモノラル再生を楽しんでいることぐらいだろうか。70 年代の後半、雑誌『MJ』ではなく、まだ『無線と実験』と呼んでいた頃の話。佐久間駿氏の「50 シングル・プリ・メイン・アンプの設計と製作」というモノラルアンプの製作記事を読んで、最初は「変わった人がいるもんだなあ」という印象だった。だが、なんとなく気になって、いつのまにか掲載のあるたびに読むようになっていた。

その後、だいぶ時間の経ったある日（90 年代だと思う）、何かのオーディオ・イベントで、ご本人と装置に直接お目にかかることになった。今思うと、おそらく MUSIC BIRD で平岡正明さんと DJ をされていた頃のように、その時は平岡さんも一緒だった。平岡さんの選曲だったような気がするが、アルテックの A5 で「広沢虎造」が鳴っていたのが印象に残っている。A5 で浪曲を聴いたのは後にも先にもこの時だけ。その後、エマーシー盤の「サラ・ボーン ウイズ クリフォード・ブラウン」から「ジム」がかかって、これは素晴らしいと思った。

その印象が強烈で、自己流（佐久間式は割と部品代が高い）で SV811-3（ロシアのスベトラーナ製で、RCA 811A の低内部抵抗タイプ）を出力段にしたトランス結合アンプを作り、Lowther PM6A を Fostex のバックロード・エンクロージャー・キットに収めたものを相棒にして、しばらく聴いていた。

キャピトル時代のフランク・シナトラなどを再生するとその実力を発揮したが、その内に PM6A のウレタンエッジがボロボロになり、ボイスコイルからも擦れるような異音が発生するようになる。Fostex のユニットに変えてしばらく聴いていたが、しだいに聴かなくなってしまう。

モノラル再生の経過と顛末

ちょうどその頃、穴戸公一氏の著書『送信管によるシングルアンプ製作集』の一節、

「……氏のアンプの静特性の無惨さたるや相当と言いたいところですが、それ以上のもので、矩形波の入力が1Wの出力として出てくるとき、3kHzですでにサイン波の様相をおび、10kHzの歪率は出力に関係なく、一直線に10数%台を頑として譲らないという立派さなのであります。私とてもし佐久間アンプを根固留土（コンコルド）なる氏の館で聴いていなかったならば、まったくその通り、と満腔の賛意を表していたに違いありません。ところが氏の館でモノのラウザーを通して再生される佐久間アンプの音は、かつて私がどこでも聴いたことのない実在感に満ち、音離れがよく、スピーカーを意識させないモノとは思えない広い音場を再現する音だったのです。……」を読んで、そこまで酷い特性だったとはと、妙なところに感心。かくなるうえはもう一度聴いてみなくてはなるまいと決心する。

2010年頃のある日、館山のコンコルドを訪ねた。佐久間さんは「来月号で発表するアンプ（確か845ドライブ211シングルだったと思う）を聴かせてあげるよ」と気さくに応じてくださった。もう一度、サラ・ボーンの「ジム」をお願いする。A5が奏でるサラ・ボーンの歌声は例のイベントのときのように健在だった。その後、樽入りのLowther PM6Aで、カーティス・フラーの『ブルースエット』から「ファイブ・スポット・アフター・ダーク」を聴く。今までも音が良いという評判のお店に何度か足を運んだことがあるが、どこも余り感心したことがない。そういう意味では穴戸さんの言うとおり、コンコルドの音は別格だった。

佐久間さんの作るアンプの音が良かったのは、この方がプロの料理人であったことも関係があるのかもしれない。音も味も五感に関わるモノ、良い味と良い音は似ているような気がする……なんて思っていたら、最近、娘さんが佐久間さんについてエッセイを書かれていて、これも面白い。そのエッセイによると、氏は調理師免許を持っていなかったとか。

……それ本当ですか？ 料理の腕前と資格は無関係とは言え、面白過ぎです。

■ 佐久間さんの娘さんのエッセイ

<https://note.com/yomeimonokaki/m/m8f1bbc0d3a04>

アルテックを買えば、コンコルドのような音になる？……というのは安直過ぎる発想なのだが、結局、604-8H（俗にA5の低音ユニット515と高音ユニット802を同軸化したと言われる）を搭載した612Cモニターという名の、今から47年ほど前の製品（購入当時は35年前）を入手した。廃業したミニシアターが放出したという3本セットのうち、モノラル用に、首尾よく1本だけを手に入れられたのはとても幸運だった。

エッジに塗布されたビスコロイドは重力で垂れてくるし、おそらくLCネットワークはとうの昔に賞味期限切れになっていると思われるが、それでも音楽を楽しく聴かせてくれる。ジャズ全盛期の録音スタジオで活躍したのも同系統のタイプだし、自分の聴く音楽ジャンルには最適なスピーカーに違いない。今のところはその期待に応えてくれていると思う。モノラルの最大の利点は好きな場所で聴けること。それにヴォーカルの定位はバツグンとしか言いようがない？……。

ネットワーク・オーディオ

2021年に値段のコナしてきたミュージック・ストリーマー（iFi Zen Stream）を購入。当初はNASに収めたiTunesのデータを再生する予定だったが、試しにSpotifyを使ってみたら、素晴らしくイージー。聴きたいと思っていた廃盤アルバムが見つかる場合もあるし、知らなかった音楽が何千万とあり、簡単にアクセスできるなんてまるで夢のようだった。特にiPad版のアプリは制限が緩いこともあって、フリー・ユーザーでもプレイリスト通りに再生できる。

Roonを導入してQobuzと契約している友人もいて、そういう環境と比べるとやはり聴き劣りするのは確かだが、サブスクは生きているうちに解約しないと後が大変だとか……。音楽を楽しむなら無料のSpotifyでもいいかな……と今は割り切っている。どういうアルゴリズムなのかはとても不思議だが、リコメンドもかなり正確で、抜群なセンスで提案してくれる。今や普段の音楽再生はほとんどネットワーク・オーディオに頼っている。カーオーディオでもスマートフォン経由で利用しているが、通常のモバイル回線でもさほど劣化しない（というより、うまく劣化させているのかもしれない……）。

78回転レコードの再生環境

再生環境がモノラルであることから、78回転レコードにも興味がわき、ベルト掛け替え式の78回転対応プレーヤーとローコストな対応カートリッジを準備。これに例会で紹介した78回転用EQカーブを選択できるデジタル式フォノアンプを加え、今は一山1000円で入手したレコードをいろいろと試しているところ……。

ずいぶん前に格安で買ったスタントン400.v3(実体はピカリングNP/ATらしい)に3milの交換針があることがわかり、これが案外掘り出し物で良い音だった。この製品は今もlgear.comで入手できる。

ただ、米国ではアーカイブ事業の一環として「The Great 78 Project」が立ち上がっていて、すでに18万もの音源が収録されている。古い78回転レコードを送ると、デジタル化されて公開される仕組みであり、誰でも戦前の巨匠や奏者の演奏を楽しむことができるという素晴らしいプロジェクトなのである。日本からもずいぶん送られているようで、江利チエミ、三橋達也、藤山一郎などの有名人を始め、様々なジャンルの音源が公開されている。ファイルごとの情報もかなり詳細で、使用した針のサイズから、ロールオフ、ターンオーバーの周波数まで明記してある。もはや個人が装置に費やすより、こちらに寄付をするほうが良いかもしれない。

■ The Great 78 Project

<https://great78.archive.org/>

* 上部メニューの「Listen」で検索画面に移行。



良く聴く音楽

若い人たちのジャズも素晴らしい。Spotify で見つけた、よく聴く女性ジャズボーカリストを数名ご紹介しましょう。今すぐ YouTube で聴けます。

- “Manhattan” Laura Anglade

https://youtu.be/AmuepeF4zm8?si=TnKf_Yt-9Y-BWLLr

- “Nobody But You” Abigail Flowers

<https://youtu.be/xkBNep5C1Yo?si=A5RqyXszeHQNungY>

- “Lemon Tree” Ale Nuñez

https://youtu.be/MHIRTdb_78I?si=Xvj3RydcTA3Dlu9T

ネットの中の面白い資料

ご存じの方もおられると思いますが、ご参考まで。

- RCA Application Note

<https://www.one-electron.com/Archives/RCA/RCA-AppNotes/RCA-AppNotes.html>

ここには RCA の研究所で書かれた応用技術資料の貴重なアーカイブがある。海外サイトのためか、国内ではあまり知られていないようである。

中でも、「RCA 1933 AN-29 Design of Audio Systems Employing Type 2A3 Power Amplifier Triodes」が面白い。ここで紹介される 2A3 の動作は後に『RCA 受信管マニュアル』に掲載された AB 級の動作例に過ぎないが、最終ページの実測図が興味深い。その昔、池田圭氏はこのトレース図を例に、電源レギュレーションの大切さを解説されていたが、これはそのオリジナル。この図によると、2A3 プッシュプルはプレート電圧 300V グリッドバイアス-62V のとき、8k Ω という高負荷インピーダンスにすると当然出力は小さくなるものの、歪は 0.5% と著しく低下するように読み取れる。A 級動作に近づくためか、自己バイアスでも固定バイアスでも電源レギュレーションには左右されない。

そう言えば、三極管に高負荷を与えることの効用について、池田圭氏は「三極出力管礼讃」（1958 年『無線と実験』）で次のように述べている。

「このことは非常に大切で、実際にいい音を出すための増幅器にはこの方法が用いられている。これはあまり一般に発表されていないが、いい音を作り出す専門家の間の秘訣の一つである。と同時に、スピーカーのように周波数特性によって、インピーダンスが高い方へ変化してゆく抵抗を持った負荷を電力増幅器に用いるときはきわめて有利である。」

……なるほど、最後はこれを作ろう。

2A3 プッシュプルのトランス結合型は、過去に上杉佳郎さんと森川忠雄さんの製作記事があって、どちらも生々しい表現が持ち味と書かれていた。どうもその手の音には惹かれてしまう。

その 2A3、RCA 社内のプロトタイプコードは A-181 と称されていたようで、このサイトにあった発表前年の資料によると、フィラメントは 2.5V 1.75A でテストされていた形跡もあった。もしこの規格で登場すれば、300B なみのフィラメント効率になったはず。最終規格が 2.5A になったのはエミッション特性に余裕を持たせた結果なのだろうか。

■ 20 世紀的脱 Hi-Fi 音響論

<http://cent20audio.cloudfree.jp/index.html>

モノラル再生の啓蒙サイト。豊富な知識と楽しい独断。

■ イコライザーカーブの歴史

<https://microgroove.jp/history-of-eq-curves/>

2 年以上の歳月をかけて各種文献を調査した貴重で素晴らしい労作。

■ アナログレコード再生のページ

<https://www7a.biglobe.ne.jp/~yosh/index.htm>

こちらも特許文献の調査を踏まえた、目からウロコの技術解説。

「実際の録音は単純な RIAA/IEC/BS などの録音特性だけで録音されているのではなく、内周に向かい線速度が減少するに従い丸針でトレースした時高域が減少するのを補正するために、内周に向かってハイ上がりに録音補正されることが多いことを忘れてはなりません」
……そんな話、はじめて知りました。

現在の再生環境

